



T O R U H A R A

原 透

2025



原 透 | TORU HARA

1978年 東京都立芸術高等学校卒業
1987年 東京造形大学研究生修了
1990年 文化庁芸術家国内研修員

現在：国画会彫刻部代表会務委員 日本美術家連盟理事

| グループ展 公募展 |

1984年 第58回国展入選 (以後、毎回出品)
1990年 第1回石空間展 (以後、毎回出品)
1993年 相模湖町野外美術館彫刻展出品 (神奈川)
1998, '99年 C.J.A.G展 (クラコウ国立博物館Manggha・ポーランド・スロベニア)
2001年 第4回みちの造形展 (相模原市・神奈川) 5回～10回出品
2013年 第21回大田原市街かど美術館 (美術散歩イン黒羽)
2014年 公募団体ベストセレクション美術 2014 (東京都美術館)
十日町石彫プロムナードの作家展 (星と森の詩美術館)
2017年 石彫の現況 2017 (現代彫刻美術館)

| 受賞・コンクール |

国展：1984, '87 / 新海賞'85 / 新人賞'90 / 会友優作賞 / 会員推挙
1993年 TAMAライフ21国際野外彫刻展 (東京)
2000年 淡路夢舞台国際石彫コンクール・シンポジウム2000 入賞 (兵庫)
2003年 秋田県立武道館モニュメントコンペ入賞 (秋田)
2006年 芝浦アイランド彫刻コンクール CAPE特別賞 受賞 (東京)
2008年 第35回長野市野外彫刻賞 受賞 (長野)
2011年 第24回UBEビエンナーレ (山口県・宇部市)
2012年 第12回KAZIMA彫刻コンクール (東京)
2013年 第10回風の芸術展 協賛賞受賞 (鹿児島県・枕崎市)
2015年 日本芸術センター第5回彫刻コンクール 審査員賞
2018年 第15回特別記念KAJIMA彫刻コンクール (東京)
2020年 第16回KAJIMA彫刻コンクール (東京)

| 個展 |

かねこあーとギャラリー (2001年)、高島屋 日本橋店 (2008年)、yyギャラリー (2012年)
いりや画廊 (2016・2018・2020・2022年)、東京芸術センター (2017年)、川越市立美術館 (2019年)
東京ガーデンテラス紀尾井町 (2020年)

| 平面作品展 |

2013年 第3回「ドローイングとは何か」展 (準大賞)
原 透・西山溜依 二人展 (ギャラリー志門)
2014年 第4回「天の果実」原 透展 (ギャラリー志門)

| 彫刻シンポジウム |

盛岡 (1990年)、八王子 (1995年)、大田原市・那須野が原 (2002年)、十日町 (2013年)

| パブリックコレクション |

東京都 (葛飾区、八王子市、清瀬市)、栃木県 (大田原市、矢板市) 兵庫県 (神戸市、淡路島)、
神奈川県 (秦野市、厚木市)、秋田県 (秋田市) 長野県 (長野市)、鹿児島県 (枕崎市)、新潟県 (十日町市)

原 透 展

- 切 光 -

近年、切光というシリーズに取り組んでいます。この作品のコンセプトは切ることができない、時間、空間、光などを切断するイメージを形にしています。切光には、中国語で切り尽くすという意味があるようです。造形的には鋭角な三角形を用いて、切るという行為に内在している、ある種の危うさを表現したいと考えています。制作のきっかけとなったのは、東京国立博物館で大包平（おおかねひら）という太刀を見たことから始まりました。「この神聖さすら感じる物はいったい何なのだろう。私が学んできた西洋型の彫刻理論では理解できない。これは全くちがう造形原理で造られたものではないか。」と感じました。もちろん日本刀は彫刻ではありません。造形物として認識してみると、細長い鉄を素材とした薄い板状で量（マッサ）とは無縁です。しかし、そこには彫刻家にとって最も魅力的な、人を引き付けずにはおかない美しさと圧倒的な存在感があります。これがどこからきているのか、形（フォルム）を通して探ってみたいと思いました。制作では素材として最初に石材を使いました。石は人間が初めて作った切断道具の材料であったからです。しかし、硬くもろい特性が薄い造形に向かないため、近年は木材で制作しています。金属はあまりに直接的との考えから、現在は使用していません。切光シリーズの制作を始めて10年になります。しかし、大包平が持っている崇高で深淵な領域に、形を通して少しでも近付けるのは何時の事になるのでしょうか。 原 透

大包平 所蔵 東京国立博物館

国宝指定名称「太刀 銘備前国包平作（名物大包平）」平安時代末期につくられた日本刀。現存する全ての日本刀中の最高傑作と言われている。



[切光]

2025 / 206×440 / アクリル・パネル・木炭・シルバーポイント



[切光 28]
2023 / 180×58×10 / 木(松)



[切光 29]
2023 / 51×22×1.5 / 木(栓)



[切光 30]
2023 / 79×55×8 / 木(櫻)



[切光 33]
2023/ 183×97×10 /木(櫻)



[切光 34]
2024 / 180×90×6 / 木(ブビンガ)



[切光 36]
2025 / 191×77×13 / 木(樺)



[切光 37]
2025 / 37×23×6 / 木(樟)



会場風景



会場風景